

29. 「愚かな戦争」遂行の軍事施設がもたらす弊害

フェイスブック掲載日2021・12／5

宇治市内を流れる宇治川とJR奈良線にはさまれた地域に旧日本陸軍の火薬製造所などがあったことは何度かふれました。

昭和4年2月、宇治郡宇治村の住民1,008名が連名で、火薬製造所が原因の不利益に対し、宇治村への助成金を国に求める請願を貴族院におこない、貴族院は「願意の大体は採択すべきもの」と同年3月に議決し請願は採択されたという出来事がありました。

署名簿には黄檗山萬福寺の住職をはじめ、「平民農」、「平民職工」、「平民銀行員」、「平民茶商」など多岐にわたる人々が名を連ねており、住所や姓がほとんどダブっていないので、世帯の代表が署名されたと思われます。



昭和5年の国勢調査では、宇治村の戸数1,463戸、人口6,551人であり、当時、村ぐるみの署名運動が取り組まれた様子がうかがえます。

請願の概要は、「陸軍火薬庫や火薬製造所の建設により、広大な土地が取り上げられ、土地に対し課税すべき恒久的財源を失った。火薬製造所に働く職工が増え、村人口の増加により教育費が大きく膨張したが、職工は担税力に乏しく、在来の村民の負担が増えたことなど、村財政はいよいよ窮迫している。海軍火薬廠の所在地に対しては、このような場合、毎年助成金が交付されているので、宇治村に対しても相当の助成金を交付されたい。」との趣旨が述べられています。

しかし陸軍省は、貴族院の議決を無視し、「陸軍は全国にわたり広大な施設を有し、これらの所在地市町村にいちいち助成金を交付することは事実上不可能であり、『陸軍に於ては目下助成金交付の意図なし』」と拒絶しました。陸軍が一切を支配する超法規的な出来事です。

この経過は陸軍省の「永存書類」という綴りに「陸軍火薬製造所所在地 京都府宇治郡宇治村に助成金下付の件」という標題で保存されています。

火薬製造所が設置されて以来、宇治村の人々は火薬原料の垂れ流しによる公害問題や大爆発事故による恐怖にさらされることになりました。

「愚かな戦争」遂行のための軍事施設がもたらす弊害は沖縄の米軍基地をはじめ、今も共通する問題です。

地図は東宇治の戦跡位置図(編著:戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会「語り継ぐ京都の戦争と平和」より)、写真は昭和12年8月18日付け「京都日出新聞」の大爆発事故の記事です。